

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.192

発行:令和3年10月1日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「庭木の冬囲いを覚えよう」

中止となりました

~~とき 令和3年10月2日(土)~~

~~午後1:30~3:30 定員10名~~

~~講師 公園緑地協会職員(緑のセンター)~~



「ヒオウと秋植え球根の寄せ植え」

中止となりました

~~とき 令和3年10月3日(日) 1,000円~~

~~午後1:30~3:30 定員10名~~

~~講師 緑のセンター相談員~~



「立派なコショウランをもらった時の講習会 III」

とき 令和3年10月24日(日)

午後1:30~3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



「果樹の剪定と栽培管理～ブドウと小果樹～」

とき 令和3年10月27日(水)

午後1:30~3:30 定員20名

講師 上川農業改良普及センター

普及指導員 岸本 結香 さん



「押し花カレンダーを作ろう」

とき 令和3年11月7日(日) 1,000円

午後1:00~3:00 定員10名

講師 押し花サークル つくしんぼ さん



「多肉植物でクリスマスリース作り」

とき 令和3年12月5日(日) 2,500円

午後1:00~3:00 定員10名

講師 フラワーマスター 山本 裕美 さん



展示会のご案内

「木の実・草の実写真展」 * 10月 1日(金)~11月30日(火) * 作品提供:神田 亘雄 さん

「神楽岡公園の四季写真展」 * 12月 1日(水)~12月26日(日) * 作品提供:板垣 吉春 さん

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")



〈園芸の基礎知識〉 植物の生き残るための争い

～ 食べられる宿命 ～

■ 少くなら食べられても再生する！

成長を続ける植物は、茎の先端にある芽が背丈を伸ばしながら、次々と葉っぱを展開します。茎の先端にある芽は「頂芽」と呼ばれます。しかし、芽は、茎の先端だけでなく、すべての葉っぱのつけ根にもあります。その芽は、頂芽に対して、「側芽」といいます。側芽は、頂芽が盛んに伸びているときには伸びません。上の芽と葉っぱが動物に食べられても、茎の下方に側芽がある限り、先に残る側芽が頂芽となって伸びはじめます。

■ 「芽生え」を守る武器は有毒な物質

有毒物質を身につけてからだを守る植物はたくさんあります。ワラビには、渋みやえぐみなどの有毒物質が含まれています。また、ワラビは春に地上に出て食用になるものは、丸く巻いた葉っぱの部分です。茎は土の中に隠れたままで、姿を見せません。地上部では、食べられることから有毒物質でからだを守り、地下部では、地下茎で寒さからからだを守っているのです。

■ 「辛み」で身を守り、武器になる

トウガラシの辛み成分はカプサイシンです。昆虫が多い地域のトウガラシはカプサイシンを多く含み、昆虫の少ない地域はカプサイシンをほとんど含んでいません。昆虫が多い地域のトウガラシにカプサイシンが多いのは、昆虫が実をかじると、そこから病原菌が侵入し、実の中のタネを殺してしまいます。カプサイシンは病原菌の繁殖を防ぐ作用があり、昆虫の多い地域のトウガラシは、多くのカプサイシンを身につけています。

(参考資料:SB ビジュアル新書「植物のすさまじい生存競争」ほか)

頂芽優勢 (からだを再生する仕組み)



上の芽と葉っぱが動物に食べられてなくても、茎の下方に側芽がある限り、いちばん先端になった側芽が「頂芽」となって伸びはじめます。そのため、食べられても、食べられる前と同じ姿になることができます。

来年のためにやっておきたい家庭菜園

今年の夏は異常高温や少雨により、家庭菜園ではこまめな水やり等、大変だったと思います。特に近年分析された家庭菜園の土壌診断データの中には、アルカリ性の土が多く見られています。これは毎年石灰を撒かれているためと思われるのですが、このような土ほど早魃の影響を受けやすくなります。

■ 対策その1 堆肥施用は秋のうちに！

堆肥を春先にすき込むとタネバエなどの被害が起こりやすく、有害なガスの発生や有機物の分解などによって生育に悪影響を及ぼすことがあります。秋のうちに散布して耕起しておくのと良いでしょう。

- ★堆肥の効果
- ① 土壌を団粒化し、通気性・水はけ・保水性・肥もちをよくする。
 - ② 堆肥をエサとする微生物が増え、有害微生物を抑制する。
 - ③ 吸収しにくいリン酸や微量元素を吸収・利用しやすくなる。
 - ④ 有害物質が植物に与えるショックやストレスを和らげる。

■ 対策その2 我が家の土===秋のうちにの土壌診断を！===

旭川市農業センター(花菜里ランド)に土を持ち込んで、検診してみましょう。

★土のサンプル採取の方法

菜園の複数地点から土を採取します。pHに影響があるので、素手では触らないようにします。採取は土の表面の厚さ1cmほど取り除いて、深さ15~20cmの作土層を上下均等に採取します。採取量は複数地点の土を混ぜ合わせて乾燥させ、イチゴパックに7分目ほどの土を提出します。



植物の病害虫

その63 「キスジトビハムシ」



キスジトビハムシの成虫(写真 鳥倉氏)



ダイコンの被害(写真 梶野氏)

1 寄生しやすい植物

ダイコン、カブ、ハクサイ、その他のアブラナ科植物

2 被害

成虫は発芽直後の幼葉に集まって食害し、径1mm位の円形の穴をあけます。食痕は葉が生長するにつれて不規則な裂孔状になります。発芽まもない幼苗期に被害が多く、食害の激しいときには葉の一面に小孔を散布したようになり、生育遅延や枯死の原因となります。

ダイコンでは、普通、発芽3週間目頃から加害を受けます。この頃から肥大期にかけて加害されると「サメ肌」状、初期の被害だけの場合は、根の生長に伴って食痕が拡大し、根部表面がデコボコとなる「ナメリ」状、表皮が厚くなってからの加害は「孔」状の傷跡となります。いずれの場合も商品価値が落ち、著しいものは廃棄処分されることもあります。

3 生態

年3回程度発生します。成虫態で収穫残渣、落葉の下、土塊の隙間、草の根元などで越冬します。

最高気温が15℃となる5月下旬頃から活動を始め、気温の上昇に伴い活動は盛んになります。卵は植物の地際に点々と産付されます。1雌当たりの産卵数は150～200粒ですが、多いものでは600粒に及ぶ個体もあります。卵の期間は5～7日。幼虫期間は10～20日で、3齢幼虫になると地表面近くに移動して蛹化します。蛹期間は3～15日です。成虫の生存期間は1～4カ月に及び、産卵期間も20～25日と長いので、発生経過はしだいに不整一となります。7月～8月に成虫発生量は最多となります。成虫は晴天の日中、ノミのようにピョンピョンとジャンプして盛んに活動しますが、曇雨天の時は葉裏などに潜んでいます。また、成虫は黄色水盤とマスタードオイルに誘引されることが知られています。

4 防除法

1. 速効性肥料を施用して、作物の初期成育を促進させ強健に育てます。
2. 周年栽培を行うと被害が増大しますので、輪作体系を行います。
3. 発芽直後の幼苗を成虫の被害からまもるために、また、幼虫の加害を防止するために、播種前に浸透移行性の殺虫剤を土壌施用します(成分名テフルトリン、商品名「フォース粒剤」)等。
4. さらに発芽後、成虫を対象に殺虫剤を茎葉散布します。
(成分名アセタミプリド、商品名「モスピラン顆粒水溶剤」)等。



雪がくる前の草花の管理と準備



10年前の10月3日には、旭川に初雪が降りました。今年はそんなことはないと思いますが、平年の10月の平均気温は9.4℃(最高気温14.9℃・最低気温4.4℃)。陽がポカポカと温かく感じられて過ごしやすい日もありますが、朝・晩は冷え込むので、そろそろ寒さ対策が必要になってきます。

1 鉢花・草花・球根類の管理と準備(一般的な宿根草を除く)

10月はシャクヤクの株分けや植替えのチャンスです。1株に3~4芽を付けて切り分け、殺菌剤に20~30分浸けて消毒してから植え付けします。ダリア、グラジオラス、カンナ等は耐寒性が弱いので軽く霜にあたって地上部が枯れてから掘り上げて貯蔵します。ダリア、カンナは7~8℃程度の低い温度の場所で、グラジオラスは乾燥させて凍結しない場所で翌春まで貯蔵します。

アマリリス、カラー、球根ベゴニア等の鉢花は比較的低温で管理し、水やりを中止して、葉が落ち、自然に枯れてきたら鉢ごと凍らない場所で休眠させます。プランター等に植えているベゴニア、インパチェンス、コリウス等の非耐寒性草花を越冬させる場合は、霜が降りる前に鉢上げて室内に取り込みます。

ポインセチア、シャコバサボテンは短日処理(最低40日間、午後5時~午前8時頃までダンボールなどをかぶせて真っ暗にする)を行うとクリスマス頃に開花させることができます。クンシランは花芽形成促進のために肥料を止め、水やりも控えて約60日間、10℃位の低温の場所で管理すると花を咲かせます。

2 洋ラン類の管理と準備

デンドロビウム・ノビル系は霜を避けながら屋外で管理し続け、気温が5℃を下回ったら室内に取り込みます。バルブが肥大し黄色味を帯び始め、花芽分化へと進みますので、その後は10~18℃位に保ち、日当たりのよい窓辺に置き、水は控えて管理します。

シンビジウムは蕾が目につくようになってきます。室内に取り込んだ鉢は日当たりが良く、最低温度が10℃以下、最高温度が20℃以上にならない場所で管理します。カトレアの秋咲き種は12~15℃以下にしない管理をします。冬咲きや春咲き種でシースが出ている株は休眠期を経て開花するので、水やりを控え、12~15℃以下や25℃以上にならないよう留意して、朝・晩霧吹きなどで湿度を保つようにします。

展示室の植物 (98)

アセロラ

学名: *Malpighia glabra*

キントラノオ科 ヒラギトラノオ属



原産地は熱帯アメリカ。「ビタミンCの王様」と呼ばれる果実にはレモンの15~30倍近いビタミンCが含まれ、疲労回復効果が高いことで有名です。日本では沖縄県で栽培され、果実は赤く丸い実で生食に向きます。しかし、日持ちが悪いのでスーパーに並ぶことなく、一般的にはドリンクやサプリメントとして流通しています。ちなみに、アセロラを鉢植えにして育てるとピンクでハート型の花を咲かせやすくなるようです。